

鑑賞者に見せたいのは一連の制作プロセス



ロンドン生まれの山根千明（1989）は、「生まれた土地に住んでみたい」という想いから高校卒業後に単身渡英。ロンドン芸術大学チェルシー校を卒業し、2014年から日本で作家活動をスタートさせた。昨年は「トーキョーワンダーウォール」に入選。そして、2月11日から東京・銀座レトロギャラリーMUSEEで初個展が開催される。「大学で取り組んでいた絵画と、写真を切り貼りするデジタルコ

ラージュを引き続き制作しています。ロンドンでは、社会的にマイノリティになってしまったことで、悩んだり自分の内側に視線が向き、鑑賞者を不安にさせるような作品が多かったのですが、今回はそれが抜けて、柔らかく描けたと感じています」

会場にはプロジェクトで撮影するデジタルコラージュと素材の写真、そしてコラージュをもとに描いた絵画4点を展示する。デジタルコラージュは生活の中で撮った写真や家族の過去の写真などを組み合わせる構成され、これを絵画に起こすことで、ひとつの世界として成り立たせ、人と人とのコミュニケーションのプロセスを表現できるのではないかと、山根は考えている。

「展覧会タイトルは、空想を現実化させた絵画を見ても、それが制作プロセスの



《Last of You and Me》2015年 キャンバス、油彩

MUSEE exhibitions 001 山根千明展 ラスト オブ ユー アンド ミー

2月11日→2月15日
銀座レトロギャラリー MUSEE（銀座）⑤



《patchery #1》2015年 デジタルフォトコラージュ

最終目的的であり、鑑賞者の想像の中で物語の完結を迎えてもらうことを意味しています」

フォトコラージュは、スケッチに近い感覚で制作に取り組んでいるようだ。それを自分というフィルターを通して、ひとつの概念とし、そこから先の物語性は鑑賞者の判断に委ねる……作家の一連の制作プロセスには、どのようなストーリーが展開されるのだろうか。

第358号 2015年2月1日発行(毎月1回1日発行)
アートフィールドウォーキングガイド
ギャラリー 2

GALLERY

2015 vol.2 (通巻 358号)

【特集】 2015年上半期
絶対に見逃したくない美術館展 BEST6

【連載】 小川英晴のアート縦横 宮田亮平 (東京藝術大学学長)

現代作家の視線 渡辺おさむ

2月の全国美術展【美術館/百貨店/画廊】 スケジュール&マップ

【巻頭インタビュー】 会田 誠